



Title	Iちゃんの言語理解のための試み : 言葉の広がり求めて
Author(s)	山崎, 祐子
Citation	情緒障害教育研究紀要, 7: 83-86
Issue Date	1988-03
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/9060
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

I ちゃんの言語理解のための試み

—— 言葉の広がり求めて ——

山崎 祐子*

幼児期における言葉の発達とその障害については、障害児教育の最も重要な課題の1つである。本論は、話し言葉獲得期の発達課題を持つ子どもについて、実践現場での指導に学びながら、いくつかのはたらきかけを行った結果をまとめたものである。市内の通園施設「M学園」で、4歳になる女兒Iちゃんと、約8か月にわたってかかわりを持った。その期間を便宜上3つに分け、第1期…「レポートの形成」、第2期…「言葉でのアプローチ」、第3期…「言葉の発展」の中で、Iちゃんに言語面へのはたらきかけを行っていった。自作遊具などによってはたらきかけを行う中で、時間がたつにつれて、Iちゃんの口からはその場面に応じた言葉が数多く出る様になってきた。

はたらきかけを行った結果、言葉の発達を支える上では、子どもを取り囲んでいる大人が、①子どもの表情、しぐさ、カタコトなどにコミュニケーションの欲求を感じとる様に努め、その場に即した言葉かけをする、②子どもにいろいろな経験の場を与える、③子どもに楽しい遊びの世界を与える、ということを中心に心がけることが大切であることが分かった。

そして、改めてそのかかわりの様子を振り返ってみると、筆者からのはたらきかけは、Iちゃんが持っていた言語能力の一部を筆者自身が発見していく過程でもあった。Iちゃんとのかかわりを通し、身をもって、言語指導の難しさを知ると共に、子どもの能力を発見することの大切さを感じとった。

(キーワード：言語発達、遊具)

1. 目 的

障害児の言語発達を促すには、どの様なはたらきかけを行っていくことが望ましいのだろうか。

筆者は、「M学園」の中で、ひとりの子どもとの信頼関係をきずきながら、さまざまなはたらきかけを行っていった。そして、最も自然な形で子どもの言葉を引き出すには、「遊具」を通しての「遊び」が望ましいのではないかと考え、自作の遊具を用いて、その有効性を確かめてみた。本論では、筆者と子どものかかわりの様子を述べ、同時に「自作遊具」の有効性について検討を加えながら、言語発達への望ましいはたらきかけについて考察したことを述べる。

2. 方 法

対象児は、昭和58年7月3日生まれ、ダウン症と診断された女兒Iちゃん、1歳9か月で「M学園」に入園した。そのIちゃんと、かかわった間を三期に分けた。

まず、第1期は、5月初旬から7月下旬までで、保育の実践現場での指導の様子を観察しながら、Iちゃんが属する「P組」の中で子どもとのレポート形成に努めた。第2期は、夏休み終了後の8月下旬から10月中旬までで、Iちゃんが筆者からのはたらきかけにどう反応し、2人の中でどんな言葉のやりとりが成り立つかということに重点を置いた。第3期は、10月の中旬から12月の初旬ま

で、筆者との1対1でのかかわりを取り入れた。

3. 第1期…「レポートの形成」

「P組」には、2人の先生とIちゃんの他に多動傾向や、情緒不安定な面を持つと思われる男児5名がいる。

1日の生活は、「M学園」の日課に基づいて行われ、その中に子ども達の発達に必要な課題（感覚訓練・運動訓練など）が盛り込まれている。

園生活の中でのIちゃんは、運動面では、いつも大変活発に動きまわり、自転車乗りやトランポリン遊びも上手にできる。また、生活面では、早くから周りの人を見分けて付き合うことができ、子ども同士よりも大人との関係が持てる。しかし、身辺自立面では、衣服の着脱時においてぎこちなさが見られ、ボタンやスナップ、ファスナーの操作を行う時も介助が必要である。そして、言語面においては、「発語数が少ない」「発語の発音が聞きとりにくい」という2点があげられた。しかし、Iちゃん自身は相手に対し懸命に話す姿勢が見られ、筆者はその言葉を「Iちゃん言葉」として受けとる様に努力した。

4. 第2期…「言葉でのアプローチ」

第2期では、筆者からのはたらきかけに対し、Iちゃんがどんな言葉での反応を返してくれるかということに注目した。園の日課の中で、「Iちゃん言葉」が多く聞かれたのは、毎週火・木曜日の午前中に行う「散歩」の時間であった。Iちゃんは散歩が嫌いで、筆者と一緒に

*北海道教育大学情緒障害教育教員養成課程

歩いていると、5分もたたないうちに、「いたあい、いたあい」としゃがみ込んでしまう。「どこが痛い？」と聞くと、「ふうん……」と言って、おなかを押さえる。

筆者が、「いたいの、いたいの、飛んでいけえ」と呪文を唱えると、「とおんでえかなあい」と必死に訴える。

また、Iちゃんが自発的に歩く様子が見えないので、「いち、にい、……ほら、ガンバレ」と何度もかけ声をかけると、突然、「うるしゃあい」と叫んだ。この様に、周りの人達を見分ける力があるIちゃんは、他の先生が隣にいる時は安定している様に筆者には見うけられた。しかし、Iちゃんの大好きな手遊びの歌を、散歩中にとり入れると、調子良く歩いてくれる時もあった。

Iちゃんは想像力が豊かなので、筆者が道に転がっている石を芋に見立てて、『焼き芋』の歌を歌うと、一緒に歌うことができた。また、途中で脱いだジャージを2人の腰に巻きながら、一緒に『汽車の歌』を歌って、歩いたこともあった。歌を歌う時の心がけとして筆者は言葉の発音を大切にしようと思った。

また、第2期ではその他に、朝と帰りの衣服の着脱時や午後の自由遊びの時間に、ゆっくりと、また、はっきりとした口調で言葉がけを行った。

5. 第3期…「言葉の発展」

第3期では、これまでのほたらきかけに加え、Iちゃんとの1対1での付き合いを10月16日から12月3日までのうちで、12回行った。

ここでは、そのかわりの様子を述べるが、前半の6回は、認知・弁別能力や発音の様子を調べ、後半の6回は、「遊び」を通してIちゃんの出発言語に注目した。

(1) 前半でのねらい

ダウン症児は、「発語と理解力の差が大きい」また、「構音に異常がある」というが、Iちゃんについてはどの様なことがいえるかを、調べることにした。

① 10月16日(1回目)

〔課題〕Iちゃんが、身のまわりのものをどの程度、理解しているかを調べる。

・方法…子どもの前に具体物を2つ並べ、筆者が「Iちゃん、～をちょうだい」と言うことに対し、Iちゃんがどう反応してくれるかを見た。

・結果は表1の様になった。

表1 認知・弁別調査の結果

正確に弁別することができた物	弁別できない物
①帽子, ②靴, ③靴下, ④かばん, ⑤ズボン, ⑥服, ⑦タオル, ⑧エプロン, ⑨紙, ⑩紙のり, ⑪クレヨン, ⑫折り紙, ⑬フォーク, ⑭スプーン, ⑮茶碗, ⑯皿, ⑰箸, ⑱ストロー	① ハンカチ ② チリカミ ③ 本 ④ ペン

② 10月20日(2回目)

〔課題〕身体パズル(写真4)などを使い、身体の一部がどの程度、理解できているのかを調べた。

・結果は表2に示す。

表2 身体の一部の認知調べ

身体の名	頭	身	手	足	おへそ	おなか	顔	目	口	鼻	耳	まゆげ	頬	指	髪
実物	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
パズル	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○

③ 10月30日(3回目)

〔課題1〕野菜・果物・動物をどの程度、理解しているかを調べた。

・結果…野菜、果物などの中で日頃、見慣れている物は理解していた。動物については、日頃から、よく見慣れている、「犬」と「猫」にしか反応を示さなかった。

ここで、興味深く思ったことは、栗を見せた時、「くり」という言葉は、出てこなかったが、『大きな栗の木の下で』という歌を歌い出したことで、Iちゃんの中には、栗とこの歌がイメージとして結びついているのではないかと思った。

④ 11月2日(4回目), ⑤ 11月5日(5回目),

⑥ 11月9日(6回目)においては、構音調べをした。

〔課題〕Iちゃんの出発言語には、不明瞭な発音が多いが、具体的には、どの様な発音になっているかを調べる。

・方法…身近な物の写真を切りとり、「スクラップブック」に、はさめたものを見せながら発音させる。

・結果…表3に示す

表3 Iちゃんの出発言語調べ

単語名	Iちゃんの出発言語	単語名	Iちゃんの出発言語
アイスクリーム	アイトクリイム	ぶどう	ぶうどお
あし	あしい	バナナ	バナナナ
いちご	いちいお	パイ	パイ
いす	いしゅ	ベッド	ベッ
うち	うちい	めがね	めえじゃねえ
おにぎり	おにいりい	みかん	みいたん
くつ	くちゅ	おそばさん	おしよばちゃん
くすり	くしゅりい	りんご	りんお
とけい	とけい	とうさん	とうちゃん
とうきび	とうびび	かあさん	かあちゃん
はし	はしい	パンツ	パンチュウ
はな	はあなあ	シャツ	シャチュウ

(2) 前半のまとめ

ねらいについてまとめてみると、10月16日、20日、30日の結果から、Iちゃんが理解している中には、自発語にならない物もあり、発音と理解力に差があるのは明らかになった。また、11月2日、5日、9日の結果から、Iちゃんの出発言語の様子も分かった。

しかし、これらについては、障害に関係なく子どもの

発達の順序性に深くかかわっていることなので、この段階での判定の仕方は、大変難しいと思われた。

(3) 後半でのねらい

7回目からの後半では、前半のまとめでの、Iちゃんがしっかりと把握していない物の名前を遊具の中にとり入れることで、Iちゃんという言葉の世界を広げるというねらいを持った。また、手先の巧緻性を高めていくという点も留意し、遊具製作の際には“手を動かしながら、遊んでいて会話のはずむもの”ということを考えて。

筆者が後半で“遊び”を取り入れた理由は、子どもの言葉を一番自然な形で、引き出すことができるのは、やはり“遊び”を通すことが一番良いのではないかと思ったからである。

(4) 後半のまとめ

Iちゃんの遊具での遊び方をそれぞれまとめる。まず、④つりゲーム(写真1)では、つりざおでつった魚を必ず「ブーラ、ブーラ」と言ってゆすった。Iちゃんにとって用意されたつりひもの長さが長すぎた様で、途中で短くすると少しずつできる様になった。また、⑤虫採りゲーム(写真2)でも、あみで採った虫を「ブーラ、ブーラ」とゆすった。また、遊びながら「おしよらをあおいでえ…」(お空を仰いで…)と歌い出したので、Iちゃんは青い空を想像しながら“虫採り”をしているのではないかと思った。

⑥の狩りゲーム(写真3)では、筆者が「いちい、に

いの、ポン」とかけ声をかけながら動物をとると、Iちゃんも全く同じ様に模倣をすることができた。

④、⑤、⑥の遊具は、言葉を多く覚えることをねらいとした他に、目と手の協応をはかる場を多くしようというねらいもあった。つりざお、あみ、やりの操作がこれにあたるが、Iちゃんがそれを操作する様子を見てみると、⑥<⑤<④の順で難しさが増した様である。⑥は棒で直接、動物をとれるし、⑤はあみが大きいので虫をとりやすいのに比べ、④はつりひもがゆれる分、魚をねらいづらいことが分かった。また、④の袋のひも、⑤の袋のボタン、⑥の袋のファスナーの操作は、筆者が思っていたよりも時間をかけずにできた。⑤のボタンは「…で、…で、でった?ねえ、でった?でっないよー」(で、で、できた?ねえ、できた?できないよー)と少しイライラしながらやっていたが、ボタンをはめ終ると大きな声で、「でったあー!」(できた)と言って喜んでいた。

⑦着せかえパズル(写真4)については、人形を見るたびに、「とうしゃん」(とうさん)とニコニコ笑いながら並べた。また、色の弁別ができないIちゃんに“色”を意識してもらおうと思い、青いズボンを持ちながら筆者が、「あおいズボンだね」と言うと、Iちゃんも「あおー」と言ってニコリと笑った。しかし、このパズルは体の部分がしっかりと固定されていないため、着せかえをする時はとてもやりにくい様子であった。

⑧ままごとセット(写真5)は、Iちゃんが大好きな

<p>④ つり ゲ ー ム</p> 	<p>⑤ 虫 と り ゲ ー ム</p> 	<p>⑥ 狩 り ゲ ー ム</p> 
<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の中の生物の名前を覚える ・つりざおの操作で目と手の協応をする 	<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・虫の名前を覚える ・虫とりあみの操作で手先を訓練する 	<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動物などの名前を覚える ・やりの操作で、目と手の協応をする
<p>内 容</p> <p>袋のひもをほどくと、中が“池”になり、中の魚をさおでつる。</p>	<p>内 容</p> <p>袋のボタンをはずすと、中が“空”になり、あみで中の虫をとる。</p>	<p>内 容</p> <p>袋のファスナーを開くと、中が“森”になり、やりで中の動物をとる。</p>
<p>⑦ 着 せ か え パ ズ ル</p> 	<p>⑧ ま ま ご と セ ツ ト</p> 	<p>⑨ 乗 り も の シ リ ー ズ</p> 
<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体の部分・構成の把握 ・色別の訓練、目と手の協応 	<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べもの、台所用品の名前を言う ・対人関係(社会性)を高める 	<p>ね ら い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乗り物の名前を覚える ・目と手の協応をはかる
<p>内 容</p> <p>体は、頭、体、両手、両足に分かれ、マジックテープで着がえをさせる。</p>	<p>内 容</p> <p>Iちゃんの大好きなままごとで“ごっこ遊び”を展開する。</p>	<p>内 容</p> <p>道路になっているマットの上で、車やバスなどを走らせる。</p>

遊びの1つでもあって、とても楽しそうに遊んでいた。

その中で「ねえ、ちったね、まってね」（ねえ、ちょっと、まってね）や、「はい、どうじょ」（はい、どうぞ）、「どうじょ、めしい…ってくださしい」（どうぞ、召し上って下さい）など、長い構文の文章がIちゃんの口からスラスラと出てきた。また、ポットのふたが開かないと「あっかなあいよお」（あかないよ）と言いながら、ティッシュでふたを包んでから取ろうとした。

これは、Iちゃんが日常生活の中で、周りの大人がすることを良く見ているという裏付けにもなるだろう。

⑥乗りのシリーズ（写真6）では、車のことを「ブーブー」と言いながら、道路のマットの上を目でしっかりと追いながら動かしていた。

この様にIちゃんは、遊具を通した遊びの中で、筆者がそれまでに聞いたことのない言葉で話しかけてくれた。また、前述した様にIちゃんの違う一面を見ることもできた。

6. 結果と考察

(1) Iちゃんの成長

以上の様に8か月間にわたって、筆者がかかわってきた中で感じたIちゃんの変化を追ってみる。

まず、Iちゃんの発語数は5月当初に比べ、着実に増加しているといえる。筆者の記録から、5月当初は1日の園生活の中で40語前後だった発語が、12月には、70～80語に伸びている。その要因として、発音の不明瞭な言葉がしだいに明確になってきたことがあげられる。

そして、それともなって、筆者とIちゃんとのレポートの成立が深く関係していると思われ、最初は聞きとれなかったIちゃん言葉が、しだいに理解できるようになってきたのではないだろうか。

また、Iちゃん言葉がその場に適切に出るようになったと思われる要因にも、やはりこのレポートの成立が深く関係していると思われる。

以上のことからIちゃんの言語面での成長の様子は次の様にまとめられる。

- ①理解言語とともに発語数が増えた。
 - ②発音の不明瞭な言葉が減ってきた。
 - ③その場に応じて、二語文、三語文も出る様になった。
- では、さらに、この様にIちゃんが言語面で成長してきた要因は、以上述べた他にどこにあるのかを見つめる。

(2) 言語発達の要因

言語の発達を、Iちゃんの成長にかさねて考えてみると、その要因として次の点をあげることができる。

- ①家庭での指導
- ②「M学園」での指導

そして、筆者は「M学園」での指導場面で学んだことと関連させて、園の中での要因について考える。

まず、園の指導者は、生活の中でその場に合った言葉がけを子ども達にしていた。筆者は、子どもの発音をしっかりと受けとめ、再び返している指導者の姿を何度も目にした。この様に、子どもからの信号である発語を熱心に聞きとり、再び子どもに返していくことで、より豊かな発音を促していくことにもなるのだと思う。

また、「M学園」の中では、子どもが自由に言葉話す機会を多く設けていた。それは午前中の散歩であり、朝や帰りに歌う歌であり、午後からの集団訓練の時に、読む絵本や紙芝居などの“遊具”であった。この様な“遊び”を通して、子どもは目の前にないものをイメージ化することを身につけてから“言葉”というものが自由に表現される様になっていくのだろうと思った。

まとめ

以上のことから、子どもの言語発達に大人としてどのような援助をすれば良いのかが明らかになったが、子どもとのかかわりを通して、痛感したことを最後に述べる。

それは、“遊び”の中で遊具を用いる時、子どもの“興味”を最優先させることである。筆者は、第3期のかかわりで“遊具”を用いたが、Iちゃんがぬいぐるみを好まないということを知らず、“狩りゲーム”を用意した。遊んでいる中で、Iちゃんが「キャー」と叫びながらニコニコと笑っていたので、Iちゃんが喜んでいるのだとばかり思っていた。でも、実は、それが拒否の表現だったのではないかと思い、深く反省した。この様に、筆者は“子どもの表情、しぐさ、カタコトなどのコミュニケーション欲求を敏感に感じとることの大切さ”をIちゃんから学んだ。

以上の様に、Iちゃんとのかかわりによって改めて、言語指導の難しさを知ると共に、子どもの能力を発見することの大切さを感じ取った。

本研究をすすめるにあたりまして、実践活動の中で御協力下さいました「M学園」の園長先生初め、諸先生方、並びに、「P組」の先生方、子ども達、そして、Iちゃんに心から深謝いたします。

文 献

- 1) 安藤忠 (1987) : ダウン症児の育ち方・育て方, 北九州市立総合療育センター編著, 学研
- 2) 三上敏夫 (1978) : 子どもを見る目, 育てる心, 一声社
- 3) 小出まみ (1984) : 保育園児はどう育つか, ひとなる書房
- 4) 河崎道夫 (1985) : 子ども遊びと発達, ひとなる書房